

## プロローグ 江戸時代の女性芸能者

現代の日本人のほとんどは、江戸時代は女性芸能者がいなかったと思っっている。しかし、それは間違いで、江戸時代も女性芸能者はいた。

例えば、江戸時代のごく初期に活躍した出雲のお国は男装して主役のかぶき者を演じた。かぶき者は、派手な身なりの、常軌を逸した行動をした者をいう。そのかぶき者の姿を歌と踊りで描写したため、お国たち一座の芸能はかぶき踊りと言われたのである。現代まで伝わる歌舞伎は、出雲のお国のかぶき踊りがルーツとされる。

出雲のお国たちのかぶき踊りを模倣して遊女歌舞伎も興った。相手をする遊女を客に選んでもらうため、遊女屋が遊女たちに踊らせた芸能で、特にフィナーレ（最終場面）の総踊り（群舞）が人気だった。遊女歌舞伎の大流行に恐れをなした幕府は女性の舞台出演を禁止する。そのため、歌舞伎は男だけの芸能に変化していく。

遊女歌舞伎が禁止された直後から、武家屋敷に招かれて踊る女性芸能者が現れ、踊子と呼ばれるようになる。遊女歌舞伎に出演していた女性たちが芸を行う場所（働き場所）を変えたのだらう（のちに詳述）。

現代の歌舞伎に繋がる形が成立したのは元禄時代（17世紀末）だったが、以降、歌舞伎の脇役やその妻・娘が街で素人（一般人）に歌舞伎の踊り・音楽を教えるようになる。歌舞伎の舞踊、歌舞伎の音楽Ⅱ三味線音楽の大衆化が始まったのである。

元禄期までの踊子は玄人くろうとだったと推測されるが、元文期（1736～41年）頃になると、歌舞伎の舞踊・音楽を習い覚えた素人の娘が踊子に参入してくる。

新しく参入した娘たちも含めて、踊子たちは、単に踊るだけでなく、三味線音楽の演奏も持ち芸とするようになる。芸の幅をひろげたのだが、芸の変化に伴って、安永期（1772～81年）頃から、踊子は芸者などと言われるようになる。